

株式会社ブリヂストン

2010年4月30日発表ニュースリリース

「CO<sub>2</sub>排出削減に関する目標設定と取り組み強化」関連資料

#### 【CO<sub>2</sub>排出量 試算根拠】

- ・ CO<sub>2</sub>の算定は当社の主要製品のライフサイクルを対象としています。
- ・ モノづくりの CO<sub>2</sub> 算定に当たって、乗用車用、トラック・バス用タイヤに関しては「タイヤのインベントリー分析試行」(日本ゴム工業会、1998年)に準拠し、入手可能な最新の知見に基づいて算定しています。他の製品に関しては入手可能なインベントリーデータに基づき算定しています。但し、現状では一部の CO<sub>2</sub> の算定データについて推計を含むため、今後更なる見える化を進め、精度を上げていく予定です。
- ・ 原材料調達段階の CO<sub>2</sub> 排出量は原材料の生産等に伴うエネルギー消費に由来する CO<sub>2</sub> 排出を示しています。
- ・ 生産段階の CO<sub>2</sub> 排出量は当社グループの生産拠点等における製品の生産に伴うエネルギー消費に由来する CO<sub>2</sub> 排出を示しています。
- ・ 流通段階の CO<sub>2</sub> 排出量は当社グループの製品等の輸送に伴うエネルギー消費に由来する CO<sub>2</sub> 排出を示しています。
- ・ 廃棄段階の CO<sub>2</sub> 排出量は当社グループの製品の焼却等により発生が推定される CO<sub>2</sub> の量を示しています。
- ・ 使用段階の CO<sub>2</sub> 排出量は当社グループの製品をお客様が使用する際に消費するエネルギーに由来する CO<sub>2</sub> 排出であり、製品の使用段階については現在のところ乗用車、トラック・バス用タイヤのみを算定対象としています。タイヤの転がり抵抗を低減することにより、使用段階の排出の削減に貢献できるものと考えます。
- ・ 今後、定期的に本目標に対する進捗を Web サイト等で公開していきます。
- ・ 本目標は発表時点で当社グループが合理的であると判断した一定の前提条件に基づいて設定しており、社会の情勢や事業環境等の変化を踏まえ、CO<sub>2</sub> の算定方法や排出量削減施策を含め、定期的に見直しを行っていきます。

以上